

実施計画事業名		市民顕彰事業		評価対象年度	平成 23 年度			
評価担当部署		総務部総務課		課長(主幹)名	西本 馨			
総合計画体系	分野	0	地域経営(自治)					
	政策	2	パートナーシップによるまちづくり					
	施策	1	市民の声を活かし開かれた市政を推進します					
	関連施策							
現状と課題	最近の傾向として叙勲・表彰対象者の選定が難しくなっている。特に市政功労者については、今後表彰対象者数が減少した際の基準についての見直しが必要になると想定される。							
目的	永年地方自治等各方面においてそれぞれの発展に貢献し、特に功績顕著な者に表彰等を行うことにより、その栄誉を称える。							
施策5ヶ年間の展開	各表彰、叙勲等の上申にあたっては、対象者を適切に把握して決定していく。							
成果指標	名称		単位		22 年度	23 年度	25 年度	
	表彰式及び祝賀会の出席数		人	目標	380	380	380	
説明	市政功労表彰式及び叙勲・褒章祝賀会の参集人数			実績	390	280		
活動指標	名称		単位		22 年度	23 年度	25 年度	
	表彰数(叙勲、褒章、名誉市民、市政功労者、市功績者、市民栄誉賞等)		件	目標	21	21	21	
	説明	市が表彰した人(市政功労者、市功績者、スポーツ奨励賞、文化奨励賞、名誉市民、市民栄誉賞)＋叙勲・褒章受賞者(本市が推薦した人、死亡叙勲含む)		実績	19	13		
				目標	-	-	-	
	説明			実績				
				目標	-	-	-	
	説明			実績				
				目標	-	-	-	
説明			実績					
事業費の実績		単位	22 年度 (決算)	23 年度 (評価年度決算見込)	24 年度 (予算)	備考		
	直接事業費(A)		千円	1,178	927	1,377		
	国庫支出金		千円	0	0	0		
	道支出金		千円	0	0	0		
	起債		千円	0	0	0		
	その他		千円	0	0	0		
	一般財源		千円	1,178	927	1,377		
	この事業にかかる職員数		人/年	0.65	1.33	1.33		
人件費(B)		千円	4,414	9,249	9,249			
計(A+B)		千円	5,592	10,176	10,626			
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化							

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	b a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する>
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	b a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する> 細事業「名誉市民年金支給事務」は該当者の死亡で消滅。(今後も該当者はいない)
各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要
	<bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
コ ス ト 効 率	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
	a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	B 見直しの検討が必要
	<A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 叙勲・市政功労者等の該当者が年度ごとにかわることで、式典への出席者数は想定が難しい。 市政への功績・篤志部門(ボランティア)の選考過程で、評価や他部門対象者との比較が難しいことから新たに表彰状の贈呈に特化して行うべく検討を始め、要綱案が定まったので連絡調整会議(選考会)へスケジュールなどと併せて次年度早々に諮る予定。

【2次評価】

成 果	b	細事業の構成	b	細事業の進め方	a	コスト効率	a
総 合 評 価	B 見直しの検討が必要 <2次評価者の視点からコメントを記入する> 1次評価のとおりとする。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--